

# 平成 22 年度第 1 四半期（平成 22 年 4～6 月期） 長岡市景況調査報告書（概要版）

平成 22 年 7 月

長岡市  
長岡商工会議所  
(調査機関) ㈱ホクギン経済研究所

## I. 調査の概要

### 1. 調査の目的

長岡市と長岡商工会議所が共同で、四半期ごとの長岡市内事業所の景気動向を調査することにより現在の景況を把握し、今後の施策に反映させるための基礎資料とする。

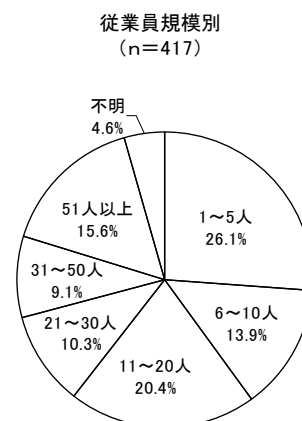
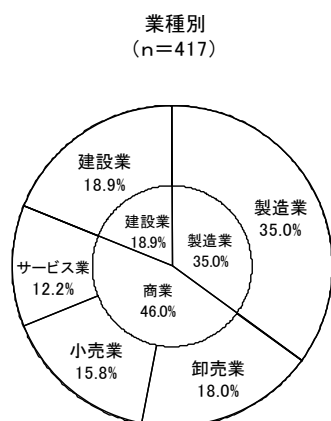
### 2. 調査の方法

- |           |                                |
|-----------|--------------------------------|
| (1) 期 間   | 平成 22 年 7 月 1 日（木）～7 月 12 日（月） |
| (2) 方 法   | 郵送による記名アンケート方式                 |
| (3) 対象先数  | 1,498 事業所                      |
| (4) 回答先数  | 有効回答 417 事業所                   |
| (5) 有効回収率 | 27.8% (417/1,498)              |

### 3. 回収状況

回収状況は下記の通り。

	調査対象企業数 ( )内は構成比率(%)	回答企業数 ( )内は構成比率(%)	回収率(%)
製 造 業	519 ( 34.6 )	146 ( 35.0 )	28.1
卸 売 業	240 ( 16.0 )	75 ( 18.0 )	31.3
小 売 業	250 ( 16.7 )	66 ( 15.8 )	26.4
サービス業	259 ( 17.3 )	51 ( 12.2 )	19.7
建 設 業	230 ( 15.4 )	79 ( 18.9 )	34.3
合 計	1,498	417	27.8



## II. 調査結果の概要

### 1. 業況判断の動向

- ・平成22年4～6月期の業況判断DI（前年同期比「好転」の事業所割合－「悪化」の事業所割合）は△23.0。前期比+15.1ポイントと改善している。
- ・平成22年7～9月期は△25.2と、業況は横ばいの見通し。
- ・業種別に業況判断DIをみると、製造業は、平成22年4～6月期14.5(前期比+32.3ポイント)と4年半ぶりにプラスに転換した。平成22年7～9月期は11.9(前期比△2.6ポイント)と引き続きプラスの水準を維持する見通し。
- ・商業（卸売業、小売業、サービス業の合計）は、平成22年4～6月期が△41.3(前期比+9.5ポイント)と改善した。平成22年7～9月期は△43.6(前期比△2.3ポイント)と、横ばいの見通し。
- ・建設業は、平成22年4～6月期が△50.0(前期比△2.8ポイント)、平成22年7～9月期は△50.0(前期比±0ポイント)と、横ばいの見通しである。

#### 【現況】(平成22年4～6月期)

業種	好転 (%)	不変 (%)	悪化 (%)	好転－悪化 (DI)	前回調査DI (平成22年 1～3月期)
製造業	40.7 (+12.6)	33.1 (+7.1)	26.2 (△19.7)	14.5 (+32.3)	△ 17.8
商業	13.2 (+1.2)	32.3 (+7.2)	54.5 (△8.3)	△ 41.3 (+9.5)	△ 50.8
建設業	9.5 (△1.9)	31.1 (+1.1)	59.5 (+0.9)	△ 50.0 (△2.8)	△ 47.2
全体	22.3 (+4.5)	32.4 (+6.1)	45.3 (△10.6)	△ 23.0 (+15.1)	△ 38.1

※( )内の数字は前回調査「平成22年1～3期の現況」からの増減

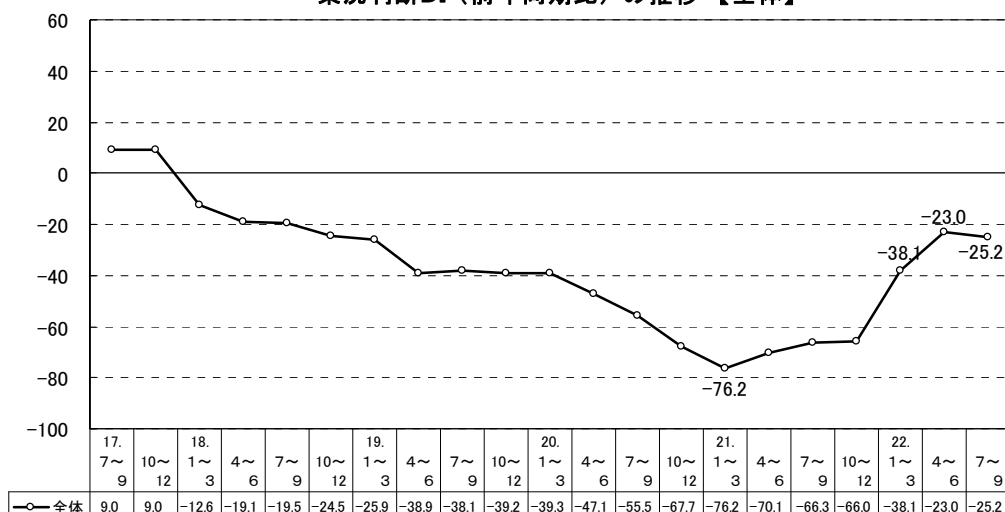
#### 【見通し】(平成22年7～9月期)

業種	好転 (%)	不変 (%)	悪化 (%)	好転－悪化 (DI)
製造業	39.2 (△1.5)	33.6 (+0.5)	27.3 (+1.1)	11.9 (△2.6)
商業	9.6 (△3.6)	37.2 (+4.9)	53.2 (△1.3)	△ 43.6 (△2.3)
建設業	6.8 (△2.7)	36.5 (+5.4)	56.8 (△2.7)	△ 50.0 (±0.0)
全体	19.5 (△2.8)	35.8 (+3.4)	44.7 (△0.6)	△ 25.2 (△2.2)

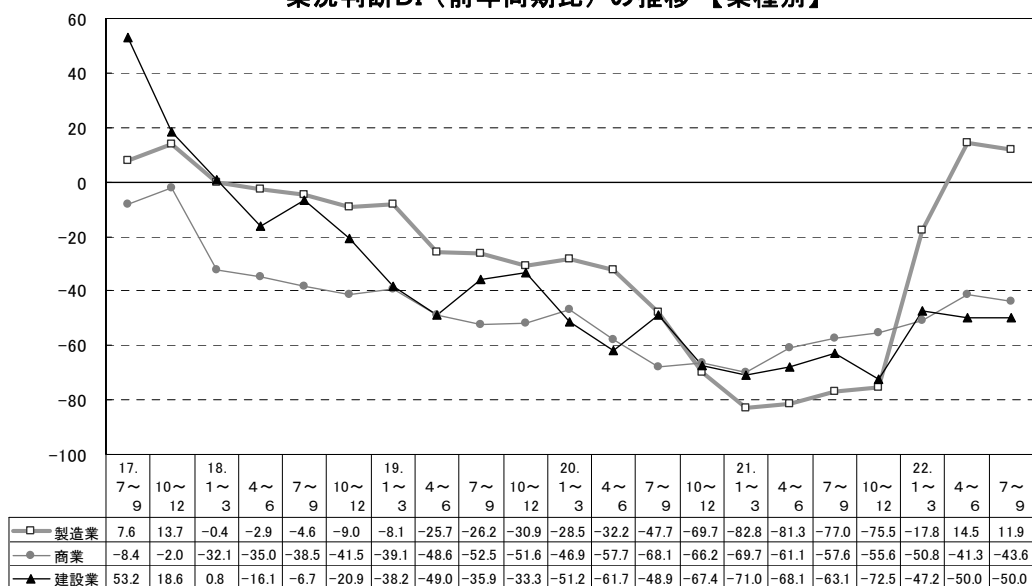
※( )内の数字は今回調査「平成22年4～6期の現況」からの増減

- ・長期的（平成17年7～9月期以降）に見た趨勢では、全体では、平成21年1～3月期を底として、緩やかな持ち直し傾向を経て、足元ははっきりした回復基調。ただし、先行きはやや慎重な見方がうかがわれる。
- ・業種別DIの趨勢では、製造業は、4年半ぶりにプラスに転換。来期もプラスで推移する見通しであり、回復基調を維持した。  
商業は、緩やかな持ち直し傾向で推移している。一方、建設業は足踏みの状況がみられる。

業況判断DI（前年同期比）の推移【全体】



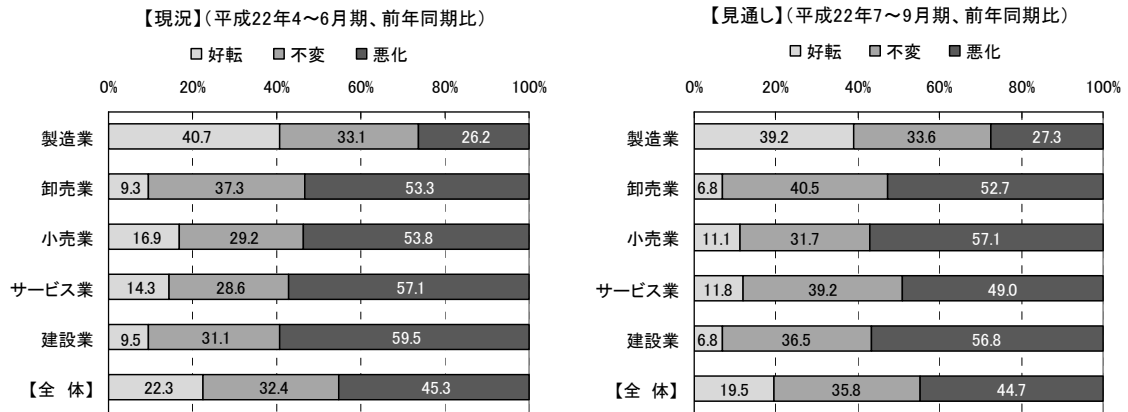
業況判断DI（前年同期比）の推移【業種別】



- ・5業種別に業況判断の動向をみると、平成22年4～6月期において、前年同期比

「好転」が最も大きいのは製造業（40.7%）で、前回（28.1%）より増加した。一方、「悪化」が最も大きいのは建設業（59.5%）。サービス業（57.1%）は「悪化」が前回（70.4%）に比べ減少した。

- ・平成22年7～9月期見通しでは、製造業は回答割合がほとんど変わらない。他の業種は「好転」との回答割合がすべて低下している。



- ・業種ごとの詳細は次の通り。（コメントの内容は前年同期比）

製造業	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鋳鍛造品は好調。精密機械はプラスを維持。</li> <li>・ 一般機械、金属製品はプラスに転換。</li> </ul>
	先行き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鋳鍛造品、一般機械、精密機械はプラスを維持。</li> </ul>
卸売業	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 繊維品・衣服、食料・飲料はマイナス。</li> </ul>
	先行き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 繊維品・衣服でマイナス幅が拡大の見通し。</li> </ul>
小売業	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食料品が依然マイナス。</li> </ul>
	先行き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自動車がマイナスに転落する見通し。</li> </ul>
サービス業	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報・通信サービスがゼロ水準に上昇。</li> </ul>
	先行き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 飲食店、旅館・ホテル、運輸はマイナス。</li> </ul>
建設業	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ほとんどの業種でマイナス。</li> </ul>
	先行き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電気工事がゼロ水準に上昇。</li> </ul>

※コメントは、回答企業数が概ね5先以上の業種を対象としている。

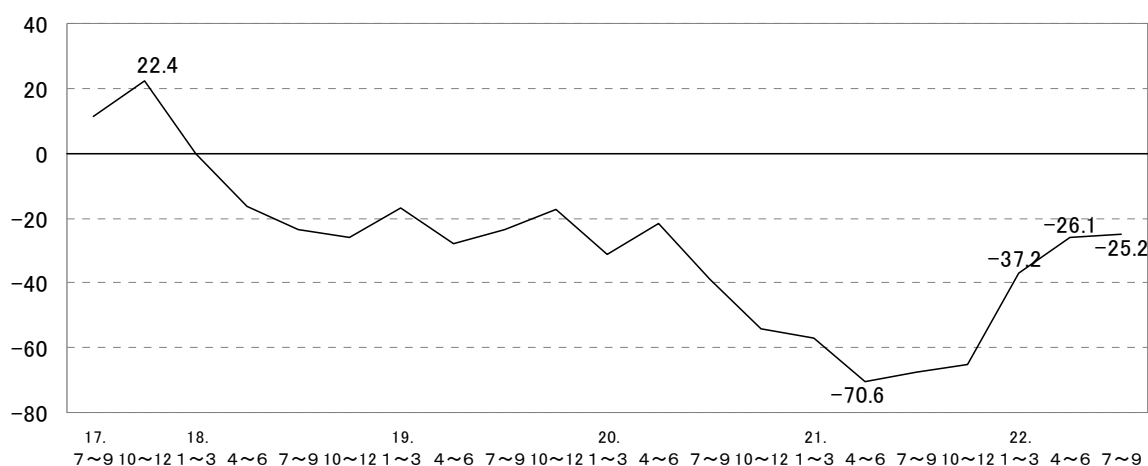
## 2. 売上高の動向

- ・平成22年4～6月期の売上高DI（前年同期比「増加」の割合－「減少」の割合）は△26.1。平成22年1～3月期(△37.2)と比較して、マイナス幅が縮小した。
- ・平成22年4～6月期の業種別DIは、製造業が8.4（前期比+26.7ポイント）と4年半ぶりにプラスに転じた。他の業種のDIはいずれもマイナス圏で、卸売業が△37.4（同+4.4ポイント）、小売業が△37.5（同+3.4ポイント）、サービス業が△50.0（同+17.2ポイント）、建設業が△56.0（同△11.7ポイント）。
- ・平成22年7～9月期の売上高DIは△25.2。前期比+0.9ポイントと横ばいの見通し。
- ・平成22年7～9月期の業種別DIは、製造業が5.6（前期比△2.8ポイント）と回復基調を維持した。他の業種は引き続きマイナス圏で、卸売業が△36.1（同+1.3ポイント）、小売業が△44.2（同△6.7ポイント）、サービス業が△40.8（同+9.2ポイント）、建設業が△47.4（同+8.6ポイント）。

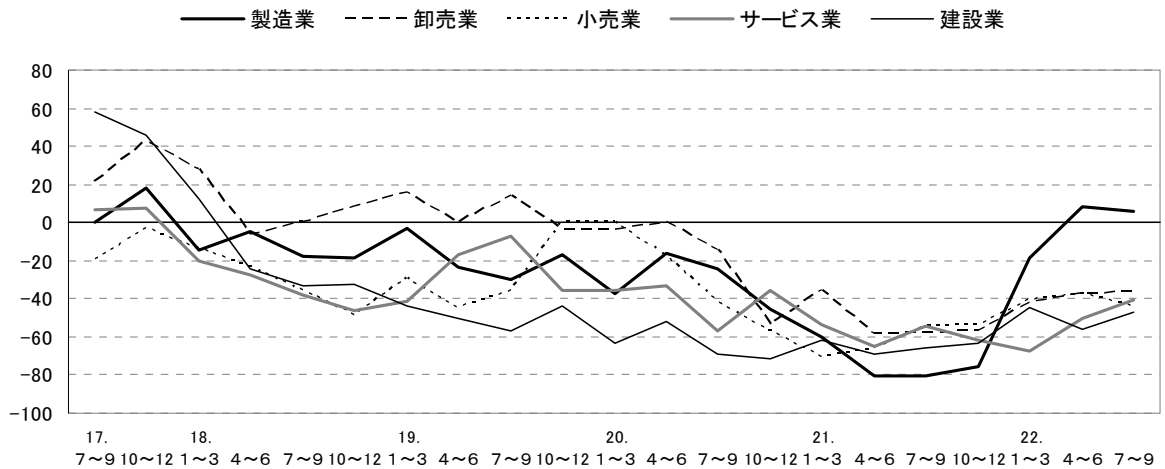
#### 売上高の動向(前年同期比)

業種	前回調査DI (平成22年 1～3月期)	現況（平成22年4～6月期）				見通し（平成22年7～9月期）			
		増加 (%)	不変 (%)	減少 (%)	増加-減少 (DI)	増加 (%)	不変 (%)	減少 (%)	増加-減少 (DI)
製造業	△18.3	40.3	27.8	31.9	8.4	37.1	31.5	31.5	5.6
卸売業	△41.8	13.3	36.0	50.7	△37.4	9.7	44.4	45.8	△36.1
小売業	△40.9	20.3	21.9	57.8	△37.5	14.8	26.2	59.0	△44.2
サービス業	△67.2	14.6	20.8	64.6	△50.0	14.3	30.6	55.1	△40.8
建設業	△44.3	12.0	20.0	68.0	△56.0	9.2	34.2	56.6	△47.4
全体	△37.2	23.9	26.1	50.0	△26.1	20.7	33.4	45.9	△25.2

#### 売上高DI(前年同期比)の推移【全体】



## 業種別売上高DI(前年同期比)の推移【業種別】



・業種ごとの詳細は次の通り。(コメントの内容は前年同期比)

製造業	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鋳鍛造品、精密機械が好調。</li> <li>・ 一般機械がプラスに転換。</li> </ul>
	先行き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鋳鍛造品、精密機械が好調を維持。</li> </ul>
卸売業	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般機械がゼロ水準に上昇。</li> <li>・ 食料・飲料は依然マイナス圏。</li> </ul>
	先行き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食料・飲料のマイナス幅が縮小する見通し。</li> </ul>
小売業	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 酒のマイナス幅が縮小。</li> </ul>
	先行き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自動車マイナスに転落。</li> </ul>
サービス業	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ すべての業種がマイナス。</li> </ul>
	先行き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続き全般的にマイナス。</li> </ul>
建設業	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ほとんどの業種でマイナス。</li> <li>・ 総合建設、土木、電機工事でマイナスが50を下回っている。</li> </ul>
	先行き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合建設、建築、電気工事でマイナス幅が縮小。</li> </ul>

※コメントは、回答企業数概ね5先以上の業種を対象としている。

### 3. 設備投資の動向

- 平成22年4～6月期の設備投資は、全体では「実施しなかった」が78.2%（前回80.7%）を占め、依然として設備投資に慎重な先が多い。  
業種別では、「実施しなかった」事業所は卸売業（82.4%）が8割を超えている。
- 平成22年4～6月期で設備投資を実施した事業所の投資内容は、「設備」、「OA機器」、「車両運搬具」などが多い。  
業種別に多い投資内容は、製造業が「設備」、卸売業が「車両運搬具」、小売業が「車両運搬具」、サービス業が「OA機器」、建設業が「車両運搬具」、「OA機器」。
- 平成22年7～9月期は、設備投資を「計画していない」が全体で79.9%と、依然慎重な姿勢が続く見通しである。  
業種別では、建設業（88.5%）、卸売業（84.5%）、サービス業（82.6%）で「計画していない」事業所が多く、慎重な姿勢がみられる。
- 平成22年7～9月期に設備投資を計画している事業所では、投資内容は依然「設備」が多い。特に、製造業で「設備」が多い。

#### 【現況】平成22年4～6月期の設備投資

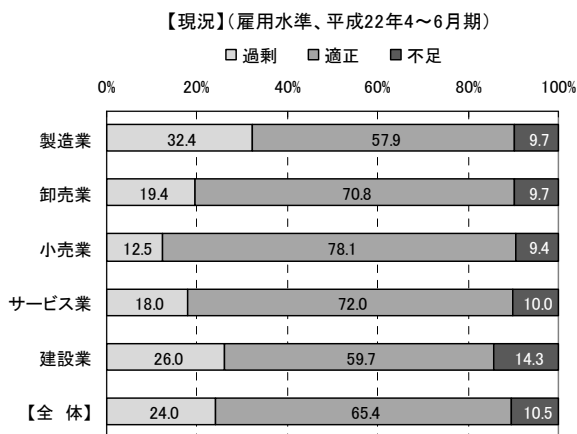
業種	実施した(%) 【( )内は事業所数】	投資内容 (事業所数、複数回答)								実施しなかった(%)
		土地	建物	設備	車両運搬具	付帯施設	OA機器	福利厚生施設	その他	
製造業	21.7(31)	1	6	17	5	4	9	3	1	78.3
卸売業	17.6(13)	1	2	2	7	1	5	0	1	82.4
小売業	22.2(14)	2	5	4	7	4	5	0	0	77.8
サービス業	26.0(13)	0	0	4	2	3	6	0	0	74.0
建設業	22.8(18)	1	1	6	8	0	8	0	0	77.2
全体	21.8(89)	5	14	33	29	12	33	3	2	78.2

#### 【計画】平成22年7～9月期の設備投資

業種	計画している(%) 【( )内は事業所数】	投資内容 (事業所数、複数回答)								計画していない(%)
		土地	建物	設備	車両運搬具	付帯設備	OA機器	福利厚生施設	その他	
製造業	25.2(35)	0	4	27	4	5	5	1	2	74.8
卸売業	15.5(11)	0	2	1	5	2	1	0	1	84.5
小売業	26.2(17)	2	9	5	4	5	5	2	0	73.8
サービス業	17.4( 8)	0	2	0	1	3	2	0	0	82.6
建設業	11.5( 9)	0	0	2	2	3	3	0	0	88.5
全体	20.1(80)	2	17	35	16	18	16	3	3	79.9

#### 4. 雇用の動向

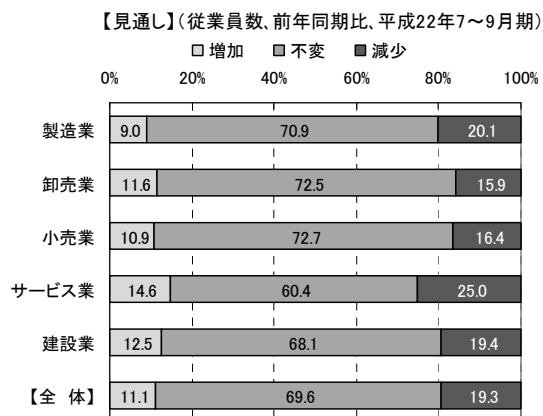
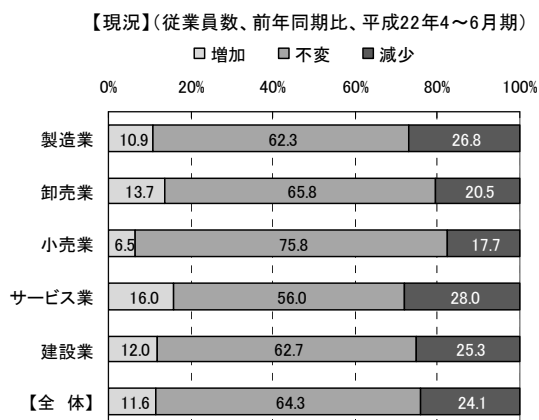
- 平成22年4～6月期の雇用水準は、全体では「過剰」24.0%（平成22年1～3月期25.9%）、「適正」65.4%（同68.7%）、「不足」10.5%（同5.4%）。DI（「過剰」の割合－「不足」の割合）は13.5と、平成22年1～3月期（20.5）に比べ7.0ポイント低下しており、雇用過剰感はやや薄らいでいる。業種別では、製造業で過剰感が依然として強い。



#### 雇用の動向

業種	現況DI (水準、平成 22年4～6月 期)	前回調査DI (水準、平成 22年1～3月 期)
製造業	22.7	38.1
卸売業	9.7	8.6
小売業	3.1	5.3
サービス業	8.0	11.3
建設業	11.7	16.9
全体	13.5	20.5

- 平成22年4～6月期の従業員数は、全体で「増加」11.6%（平成22年1～3月期8.8%）、「不変」64.3%（同72.7%）、「減少」24.1%（同18.4%）。DI（「増加」の割合－「減少」の割合）は△12.5と、平成22年1～3月期（△9.6）比ほぼ横ばいである。業種別では、サービス業で「減少」（28.0%）が5業種の中で最も多い。
- 平成22年7～9月期の従業員数は、全体で前年同期比「増加」11.1%、「不変」69.6%、「減少」19.3%。DI（「増加」の割合－「減少」の割合）は△8.2と、回答割合に大きな変化はみられない。業種別では、サービス業で「増加」（14.6%）、「減少」（25.0%）とも多い。



以上